

2017年2月1日(水) 平成28年度静岡県総合教育センター 次期学習指導要領対応授業力向上研修(高等学校・特別支援学校) 9:35-11:05 @静岡県総合教育センター大研修室

# 学習評価から 課題設定を考える

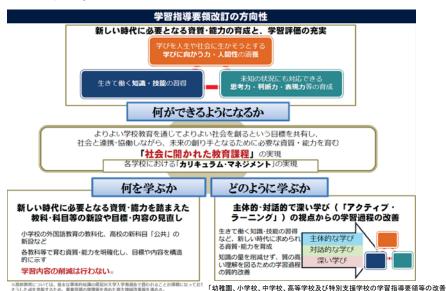
しろうず はじめ

#### 白水 始

東京大学 大学発教育支援コンソーシアム推進機構(CoREF) 機構長 高大接続研究開発センター 教授 国立教育政策研究所 フェロー

及び必要な方策等について(答申)」(H28.12.21)

# 何ができるようになるために 何をどう学ぶのか…これをみんなで考える

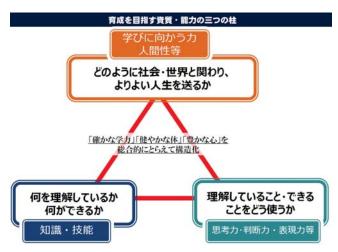


#### 午前の目次



- →前回の復習:育成すべき資質・能力と アクティブ・ラーニング
  - ●アクティブ・ラーニングの授業づくり
  - ●アクティブ・ラーニングの評価

# 「何ができるようになるかが Renovating Education of the Future



# アクティブ・ラーニングの視点



①学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

②子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

③習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善 及び必要な方第等について「(平成28年12月21日)





# 午前の目次

Consortium for Renovating Education of the Future

- ●前回の復習:育成すべき資質・能力と アクティブ・ラーニング
- → アクティブ・ラーニングの授業づくり
  - ●アクティブ・ラーニングの評価

主体的・対話的で深い学び(=アクティブ・ ラーニングの視点)と言ったときの「対話的 な学び」とは?

中教審答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の 学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」(平成28年12月21日)

身に付けた知識や技能を定着させるととも に、物事の多面的で深い理解に至るために は、多様な表現を通じて、教職員と子供や、子 供同士が対話し、それによって思考を広げ 深めていくことが求められる。

#### アクティブ・ラーニングのゴールは 型の習得ではない

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(平成28年12月21日 中央教育審議会 答申)

「アクティブ・ラーニング」は、形式的に対話型を取り入れた授業や特定の指導の型を目指した技術の改善にとどまるものではなく、子供たちの…多様で質の高い深い学びを引き出すことを意図するものであり、さらに、それを通してどのような資質・能力を育むかという観点から、学習の在り方そのものの問い直しを目指すものである。

⇒私たちが目指したいのも、型の共有を出発点に した授業デザインや学びそのものについての私た ちの理解の深まり



#### これからの教師像

- ●「反省的実践家」としての教師(佐藤, 1997) 「教科や教授法についての知識と、子どもの実態を 考え合わせ、学びの質を継続的に上げていく支援を するのが教師の仕事」
- ⇒自分の実践的判断の根拠を学習の記録を基に語り、 次の仮説を自分で立てられる教師

「こう考えられるからこう試してみた。その結果こうなっ たから、最初の考えを見直して、次はこうしよう」

⇒生徒に求めたい姿でもある。ならば先生から!



# CoREFの取組

- ●「人はいかに学ぶか」の研究をベースに、
- ●市町、県の教育委員会と連携して
- ●子どもたちが「自分の頭で自主的に考えられる」 る」授業づくりを実践的に研究する

協調的な学びを組織する授業づくり: CoREFの提唱する基本的な方向性

- ●人は元来、自分で考えて学ぶことが得意
- ●状況さえ整えば、学ぶ力を発揮できる

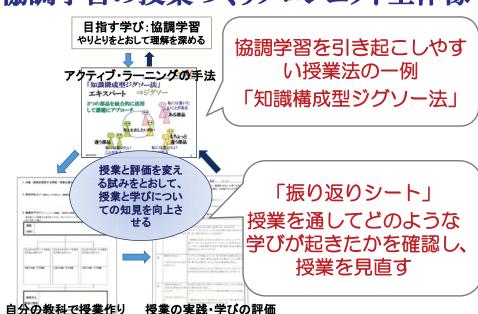
# 静岡県の取組





●今後は県・市町、学校等が各自一体となって、 ALを実現する試みがなされていく

#### 協調学習の授業づくりプロジェクト全体像



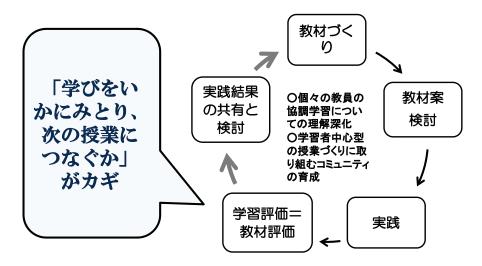
# 授業手法ですべて決まるわけではない 単なるジグソー法

〈問〉豊臣秀吉がつくった3つの制度について学ぼう〈部品〉

- A. 太閤検地について
- B. 身分統制令について
- C. 刀狩令について

⇒秀吉は村ごとに石高と耕作者を定める太閤検地, 武士と農民を厳しく区別する身分統制令,農民から 武器を取り上げる刀狩という3つの制度を作った

#### 授業は一回やって終わりではない PDCAサイクルとしての授業づくり



## 教科の本質を 知識構成型ジグソー法 問いにする

〈問〉豊臣秀吉はどんな社会を作りたかったのだろうか 〈部品〉

- A. 太閤検地について
- B. 身分統制令について
- C. 刀狩令について

さらなる疑問:「秀吉、お前も農民だろ」「今って誰だ」。とって住みやすい社会なのかな?」

# 午前の目次



- ●前回の復習:育成すべき資質・能力と アクティブ・ラーニング
- ●アクティブ・ラーニングの授業づくり
- → アクティブ・ラーニングの評価

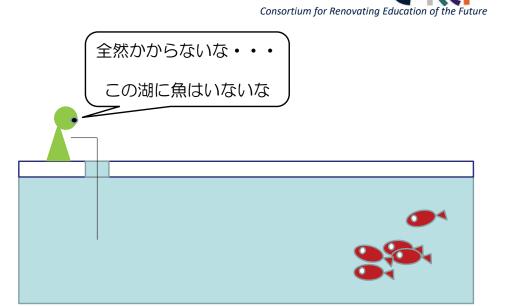


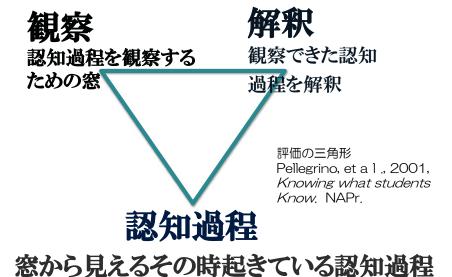


# 「評価する」と言ったときに

- ●成績をつける(評定)
- ●認めてあげる(評価してあげる)
- ・子どもの理解などを把握する

アクティブ・ラーニング型授業においては、この3つめの意味の「評価する」が一層重要に







お手元のワークシート(一枚目が絵のもの)の 問い①に取り組んでください。 この配布資料の後のページはご覧にならずに 取り組んでください。

# アクティブ・ラーニング型授業における評価: 何のために「評価」するのか

- ●本時で子どもが何をどう理解し、
- ●どんな疑問をもって次の授業に進むのか

子どもの頭の中(認知過程)がつかめれば

- ☞次の学習をどうデザインするか
- ☞今日の授業(教材)の見直し

次の学びの質を上げていくことができる



#### どちらの児童がより「理解している」?

問題	五角形の内角の和は何度?
児童A	540 度です (正解)
児童B	五角形だと・・・辺が五つ で・・・三角形五つで900度

#### 窓の開け方が違えば、見えてくるものも違う





認知過程

任意に開けた1つの窓から見えるその時 起きている認知過程



Know. NAPr.

#### 違う聞き方をしてみると?

問い	どうしてその答えになるの?
児童A	さっきそうだって習ったから
児童B	えと、辺が五つで, 三角形五つで 180 かけて, あ, 真ん中の360 度引くから 540度!



# 知識理解の「評価」と言ったときに

- ●答えを教えた直後にYes/Noクエスチョンや穴埋め問題で高い点がとれるか
- ●しばらく経ってから、抜き打ち的に発展 問題や原理的な理解を問う問いを出さ れたときに答えを考えられるか

穴の開け方が違えば、見えてくる「理解」も 違うかも *伸ばしたいのはどんな理解か* 

# 学びと評価の質をあげるための 授業デザイン検討

① 授業者の「期待する解答の要素」は、教えたい内容の肝をとらえたものになっているか

教材理解、教材研究は十分か

- ②「発問」は「期待する解答の要素」を引き出すような 問いになっているか
- ③「発問」に対して生徒は実際にどんな表現で答えを つくってくれそうか

具体的な解答例を想定することで、「期待する解答の要素」や 「発問」に無理やちぐはぐさがないかを検討

※①~③の視点をくるくる回しながら、授業のデザイン を掘り下げていくことが大事

## 評価を射程に入れた アクティブ・ラーニング型授業のデザイン

- ●どんな窓の開け方をするか
- ①一連の学習での子どもの理解深化を視野に 入れて、前後で深まりのある課題設定を
- ●どこに窓を開けるか
- ②見たいところを見られる観察の窓の開け方か
- ●窓から見えたことをどう解釈するか
- ③本当に見たいところ(理解の肝)はどこか
- ④肝を具体的な表現として掘り下げる

授業デザイン 1. 対象 (実施を想定する学校・児童生徒の概要) シートを使った 2. 数材のねらい (表科としてのわらい、前後の授業との制造、児童生徒に経済する学習など) シミュレーション 3. 授業のデザイン (「メインの課題」、最終的に課題に対して「期待する解答の要素」、その要 江戸幕府はなぜ260年も続いた? と聞かれたら,生徒 は何と答えそう? Oこのエキスパートでおさ えてほしいポイント えてほしいポイント えてほしいポイント この3資料を読んだ O扱う内容、行う活動 〇扱う内容、行う活動 ○扱う内容。行う活動 らどんなポイントを 掴んで 期待する どんな答えをまとめ 節 の要素 ● あげてくれそう?

## 振り返りシートを 使った形成的評価

- ●同じ問いへの授 業前後での回答
- ●まずは三人の生 徒で(できればク ラス全体でも)
- ●授業改善点を見つけて、子どもの力も再発見する

(i) (一) (ご)	くひとり れだけ進 したか	は大田しい等点を 地とははい等点を 神と技術をの類 授業後にどれ だけ書けたか
の課題	3 名の生物を取りあげて、 (に対す (本等) がどのよう	(1) で挙げた概点に基づいて、同じを使の「授業前と授業後 に変化したかを書いて下さい。 授業後
1	実験があない ⇒ほのからこのがわらま あされていない	事、者、実の恋が当れる都会は確実がい。そのままする (タロストーアのメモとして、リンコに変が減利する後と「恋母点(金、金、宝)、絶意は使われないいのにあるが、 ・ 程業院は市場といったがいも支援されていなかった。ファケーは 特のファールシートには自分のエネスイーはついての言葉しかなかっか。 が、タロストーの表の教育ではからかず、要が現色に見える仕組みは 関係がおることに及ったとかできた。
2	業務体があるから かきのどちらかポインドも変 及うれていない	エングルマンの実験によって、本、金、宝の取合に検索があること かかった。よって用意、食意は老合意には必要ない。だから必要な 様、実の光は反射する。よって人のほじは実は暗色に見える。 一枝業態は印意どらんのパイン社を及れていなかったが、ジダンー 後の記述では他のをおうとた最合的な実現をすることができている
3	・実験体が特色なので ・光か点に報色とが必要 でないので ・つのかに言及できてい も、	また点には緑色光は心帯ないので攻射してます。したがって反射と れた緑色光が日に見える。 (クロス) ジルスにはプロロフ(ルが緑色光を気射するから)の記述ま り) ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・

#### 21世紀型

"前向き授業"での授業者の仕事

- ○解くべき「課題」と与える「部品」で今日 の学びのゴールに向けて大まかな方向性 をデザインしてあげて
- ○その中で生徒に使ってほしいもの(「ことば」や「技能」など)をとにかく回数多く使いたくなる場面を設けてあげて
- ○その中で一人ひとりが「どこに、どのくらい進んで行ったか」を見取って
- ○次の授業のデザインにいかす

# 21世紀型「前向き」授業

(Scardamalia et al., 2012)

前向きになる



30

# 静岡県でやれるとよいことは・・・

- ●アクティブ・ラーニングの視点や授業手法を 先生方で共有し
- ●これを共通の枠組みにしながら、実践と振り 返りを先生方同士協調的に繰り返すことで、
- ●「人はいかに学ぶか」についての先生方一人 ひとりの見方、考え方を豊かにしながら、
- ●生徒の学ぶ力を引き出す授業デザインの力 量を高めていく